



平成13(2001)年度

鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書

古市遺跡
秋里遺跡
里仁第3横穴群
桂見古墳群
倭文所在遺跡1
本高段木遺跡
山ヶ鼻遺跡
久末・古郡家遺跡

鳥取大学附属図書館



0050277821

2002

鳥取市教育委員会



序 文

鳥取市は、海・山・大砂丘など豊かな自然環境に恵まれた山陰東部の中核都市として発展してまいりました。

鳥取市内には、現在約2,300あまりを数える多くの原始・古代遺跡が知られていますが、近年の各種開発事業の増加とともにその取り扱いが重要課題となっています。埋蔵文化財は地域の先人の生活を語る歴史資料であり、後世に継承していくべき貴重な市民の財産です。このような認識のもと、鳥取市教育委員会では開発と文化財の共存をはかるべく、関係各機関との協議を重ね、また地元の皆様の深い御理解をいただきながら文化財保護行政を進めているところです。

さて、ここに報告します古市遺跡、秋里遺跡、里仁第3横穴群、桂見古墳群、倭文所在遺跡1、本高段木遺跡、山ヶ鼻遺跡、久末・古郡家遺跡の発掘調査事業も地権者の方々をはじめとする関係各位のご協力によって、無事所期の目的を果たしここに報告書刊行のはこびとなりました。ささやかな冊子ではありますが、市民の皆様ならびに関係各位のご利用に供していただければ幸いです。

平成14年3月

鳥取市教育委員会

教育長 米澤秀介



例　　言

1. 本書は、平成13年度に国、県の補助金を得て鳥取市教育委員会が実施した埋蔵文化財調査の記録である。
2. 調査を実施した遺跡は古市遺跡、秋里遺跡、里仁第3横穴群、桂見古墳群、倭文所在遺跡1、本高段木遺跡、山ヶ鼻遺跡、久末・古郡家遺跡である。
3. 本書に用いた方位は磁北を示し、レベルは海拔標高である。
4. 発掘調査によって作成した記録類及び出土遺物は、鳥取市教育委員会に保管している。
5. 発掘調査の実施にあたっては、多くの方々から指導・助言ならびにご協力をいただいた。厚く感謝いたします。
6. 本報告書の編集は、前田均、平川誠が担当した。
7. 発掘調査の体制は以下のとおりである。

発掘調査主体　　鳥取市教育委員会
事務局　　鳥取市教育委員会文化課
調査担当　　前田均、山田真宏、藤本隆之、平川誠

本文目次

序 文
例 言
目 次

I はじめに	
1. 発掘調査の契機と目的	1
2. 発掘調査の経過	1
II 古市遺跡	
1. 遺跡の位置と環境	1
2. 発掘調査の概要	3
III 秋里遺跡	
1. 遺跡の位置と環境	4
2. 発掘調査の概要	4
IV 里仁第3横穴群	
1. 遺跡の位置と環境	5
2. 発掘調査の概要	5
V 桂見古墳群	
1. 遺跡の位置と環境	8
2. 発掘調査の概要	8
VI 倭文所在遺跡1	
1. 遺跡の位置と環境	11
2. 発掘調査の概要	11
VII 本高段木遺跡	
1. 遺跡の位置と環境	13
2. 発掘調査の概要	13
VIII 山ヶ鼻遺跡	
1. 遺跡の位置と環境	15
2. 発掘調査の概要	15
IX 久末・古郡家遺跡	
1. 遺跡の位置と環境	16
2. 発掘調査の概要	17
X おわりに	19

写真図版
報告書抄録

挿 図 目 次

第1図	調査地周辺遺跡分布図	2
第2図	古市遺跡調査位置図	3
第3図	古市遺跡第1トレンチ実測図	3
第4図	秋里遺跡調査位置図	4
第5図	秋里遺跡第1トレンチ実測図	5
第6図	里仁第3横穴群調査位置図	6
第7図	里仁第3横穴群第1トレンチ断面実測図	6
第8図	里仁第3横穴群第2・3・4・5トレンチ実測図	7
第9図	桂見古墳群調査位置図	9
第10図	桂見古墳群第1・2トレンチ実測図	9
第11図	桂見古墳群第3・4・5・6・7トレンチ実測図	10
第12図	桂見古墳群第8・9・10・11トレンチ実測図	11
第13図	倭文所在遺跡1調査位置図	12
第14図	倭文所在遺跡1第1トレンチ実測図	12
第15図	倭文所在遺跡1第2トレンチ実測図	13
第16図	本高段木遺跡調査位置図	14
第17図	本高段木遺跡第1・2トレンチ実測図	14
第18図	本高段木遺跡第2トレンチ出土遺物実測図	15
第19図	山ヶ鼻遺跡調査位置図	15
第20図	山ヶ鼻遺跡第1・2トレンチ実測図	16
第21図	山ヶ鼻遺跡第2トレンチ出土遺物実測図	16
第22図	久末・古郡家遺跡調査位置図	17
第23図	久末・古郡家遺跡第1・2トレンチ実測図	18
第24図	久末・古郡家遺跡第3トレンチ実測図	19
第25図	久末・古郡家遺跡第1トレンチ出土遺物実測図	19

図 版 目 次

図版 1	古市遺跡調査地全景（北から） 古市遺跡 第1トレンチ（北東から） 秋里遺跡 第1トレンチ（北から）	
図版 2	里仁第3横穴群 第1トレンチ横穴開口状況 （南東から） 里仁第3横穴群 第1トレンチ横穴埋土状況 （南東から） 里仁第3横穴群 第2トレンチ（北西から）	
図版 3	里仁第3横穴群 第4トレンチ（南東から） 里仁第3横穴群 第5トレンチ（南東から） 桂見古墳群調査地遠景（東から）	
図版 4	桂見古墳群 第1トレンチ（南から） 桂見古墳群 第4トレンチ（北西から） 桂見古墳群 第5トレンチ（北東から）	
図版 5	桂見古墳群 第3トレンチ（北西から） 桂見古墳群 第6トレンチ（南西から） 桂見古墳群 第7トレンチ（北から）	
図版 6	桂見古墳群 第8トレンチ（北東から） 桂見古墳群 第9トレンチ（北西から） 桂見古墳群 第10トレンチ（南から）	
図版 7	桂見古墳群 第11トレンチ（南から） 倭文所在遺跡1 第1トレンチ（西から） 倭文所在遺跡1 第2トレンチ（南西から）	
図版 8	本高段木遺跡 第1トレンチ（西から） 本高段木遺跡 第2トレンチ（北から） 本高段木遺跡 第2トレンチ出土遺物	
図版 9	山ヶ鼻遺跡調査地遠景（北東から） 山ヶ鼻遺跡 第1トレンチ（南西から） 山ヶ鼻遺跡 第2トレンチ（南東から）	
図版10	山ヶ鼻遺跡 第2トレンチ土坑検出状況 山ヶ鼻遺跡 第2トレンチ出土遺物 久末・古郡家遺跡調査地遠景（南西から） 久末・古郡家遺跡 第1トレンチ（南から）	
図版11	久末・古郡家遺跡 第1トレンチ 遺物出土状況（北東から） 久末・古郡家遺跡 第2トレンチ（南西から） 久末・古郡家遺跡 第3トレンチ（北西から）	

I はじめに

鳥取市は、鳥取県の東部に所在し面積約237万m²、人口15万人余を擁する山陰の中核都市として、また、鳥取県の県庁所在地として政治・経済の中心的役割を担っている。鳥取市の北側は、鳥取砂丘をへて日本海が広がり、他の三方は中国山地から続く山地によって囲まれている。市域の中心は、千代川の沖積作用によって形成された鳥取平野が占めており、南西部には潟湖である湖山池が位置している。近年まで、平野部は主に水田として利用され、縁辺の丘陵部では二十世紀梨を中心とした果樹栽培が行われてきた。しかし、宅地造成、道路建設などの各種開発によって平野部をはじめ、その縁辺の景観が近年変わりつつある。

1. 発掘調査の契機と目的

肥沃な鳥取平野は、古代から重要な生活基盤として人々の生活を支え、政治・経済・文化・交通の要地としての位置を占めてきた。このような地理的条件を背景として、鳥取市域には数多くの遺跡が所在し、現在約2,300箇所あまりの埋蔵文化財包蔵地が確認されている。このため、各種開発計画の増加とともに開発事業との調整を必要とする遺跡も年々増してきている。

今回報告する古市遺跡、秋里遺跡、里仁第3横穴群、桂見古墳群、倭文所在遺跡1、本高段木遺跡、山ヶ鼻遺跡、久末・古郡家遺跡も宅地造成、道路建設、公共施設建設などに伴い実施したものである。事業計画と、事業地内における埋蔵文化財の所在確認依頼を受けた鳥取市教育委員会では、当該地の踏査など事前の確認調査を実施した。しかし、現況から遺跡の所在、具体的な性格を把握することは困難であることから、遺跡の範囲、遺構・遺物の有無、など詳細な資料を得ることを目的として試掘調査を行うこととなった。

2. 発掘調査の経過

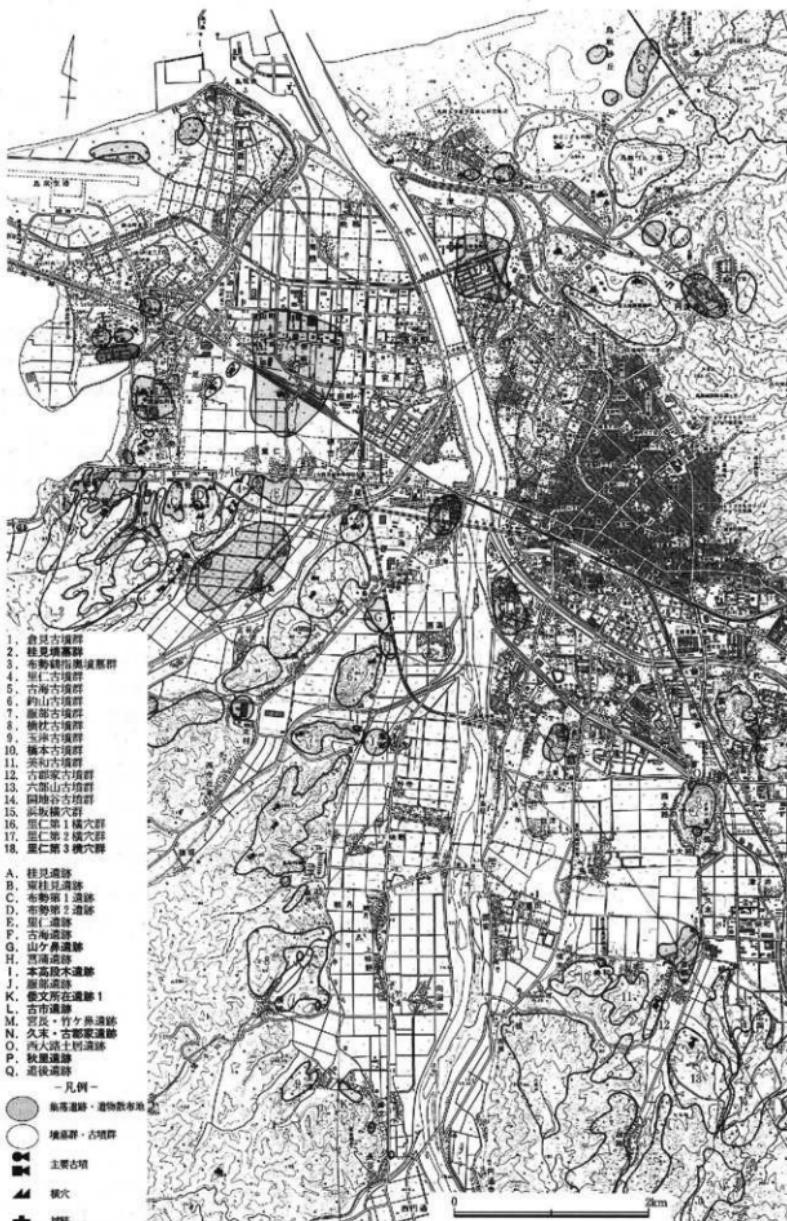
発掘調査は、トレンチ掘りによる遺構・遺物の確認に主眼を置いて行った。調査は、久末・古郡家遺跡の第1トレンチから着手し、その後、古市遺跡（第1トレンチ）、秋里遺跡（第1トレンチ）、里仁第3横穴群（第1～第5トレンチ）、倭文所在遺跡1（第1、第2トレンチ）、桂見古墳群（第1～第11トレンチ）、本高段木遺跡（第1、第2トレンチ）、久末・古郡家遺跡（第2、第3トレンチ）、山ヶ鼻遺跡（第1、第2トレンチ）を順次実施した。現地調査期間は、久末・古郡家遺跡の第1トレンチは平成13年5月25日～5月28日、古市遺跡は平成13年10月9、10日、秋里遺跡は平成13年10月17日、里仁第3横穴群は平成13年10月22日～30日、倭文所在遺跡1は平成13年11月19日～22日、桂見古墳群は平成13年11月20日～28日、本高段木遺跡は平成13年11月28、29日、久末・古郡家遺跡の第2、3トレンチは平成13年12月3日～5日、山ヶ鼻遺跡は平成13年12月11日～17日である。整理、報告書作成作業は主に現地調査が終了後に順次行った。調査面積は、古市遺跡16.5m²、秋里遺跡12.0m²、里仁第3横穴群92.9m²、桂見古墳群44.2m²、倭文所在遺跡1 50.0m²、本高段木遺跡27.9m²、山ヶ鼻遺跡25.0m²、久末・古郡家遺跡60.0m²で、調査総面積は328.5m²である。

II 古市遺跡

1. 遺跡の位置と環境

古市遺跡は鳥取市古市地内に所在し、JR鳥取駅から南西約0.9kmに位置している。西側には千代川およびその支流である大路川が流れ、遺跡はこれらの河川によって形成された標高6.4～7.2mの沖積平野に立地している。

古市遺跡の内容が明らかになったのは平成6年度に実施した試掘調査である。その後、平成8、9、10年度に本格的な調査が行われ、弥生時代中・後期～古墳時代前期、奈良、平安時代の遺構・遺物が多数確認された。遺構には竪穴住居跡、掘立柱建物跡、樋状遺構、井戸、土坑、溝、ピットがみられ、集



第1図 調査地周辺遺跡分布図

落遺跡として捉えられている。

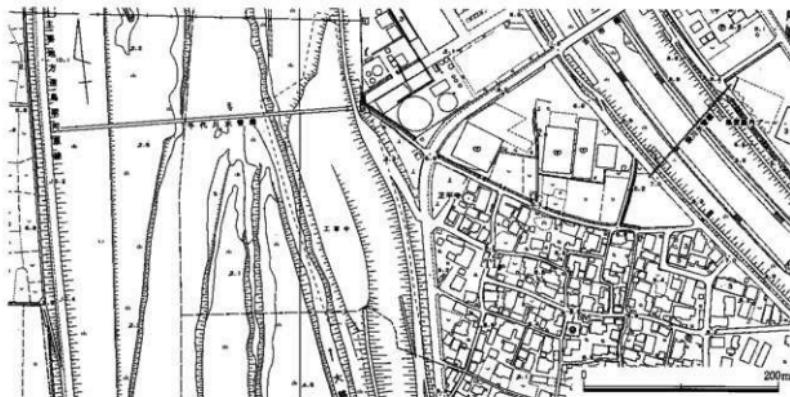
古市遺跡の周辺には西大路土居遺跡や宮長竹ヶ鼻遺跡、千代川を挟んだ対岸に古海遺跡、山ヶ鼻遺跡が所在している。独立丘陵の山麓に立地する西大路土居遺跡からは古市遺跡と同時期とみられる建物跡が検出されている。

2. 発掘調査の概要

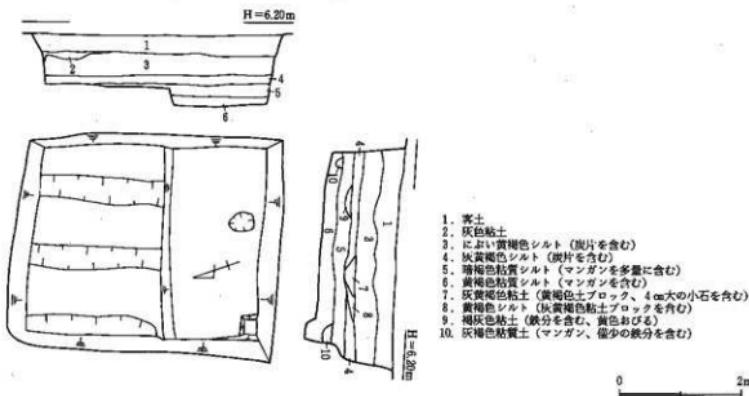
今回の調査は民間の住宅建設に伴って実施したもので、建設地内1箇所にトレンチ（第1トレンチ）を設定した。調査地は、平成8、9、10年度調査区から約100m東の古市集落内である。

第1トレンチ（T1）[第3回 図版1]

3.6×4.6mのトレンチである。地表面の標高は6.0m前後を測る。地表下35~45cm厚で客土が認められ、以下は比較的整った堆積層（第3、4、5、6層）が見られる。遺構は、第4、5層上面で溝、6層の上面から不明瞭ながら浅い落ち込みが確認された。遺物は、第3、4、5層から陶磁器の小片がわずかに出土している。第4、5層上面で検出した溝は近世以降の遺構と考えられる。



第2図 古市遺跡 調査位置図



第3図 古市遺跡 第1トレンチ実測図

III 秋里遺跡

1. 遺跡の位置と環境

秋里遺跡は、JR鳥取駅から北北西約2.5kmの鳥取市秋里、江津地内に所在し、旧千代川左岸に形成された標高3~4mの自然堤防上に立地している。

遺跡は、昭和49年6月に河川改修および国道9号バイパス建設工事中に発見された。昭和49年12月から始まった調査では、大量の土師器とともに船、鳥、馬などを模した土製品が出土し、古墳時代前期~中期の祭祀遺跡であることが明らかになった。また、その後の発掘調査では、弥生時代、奈良時代~中世・近世の造構・遺物が検出され、秋里遺跡が弥生時代中期から中世・近世にかけての複合遺跡であることが明らかになってきている。

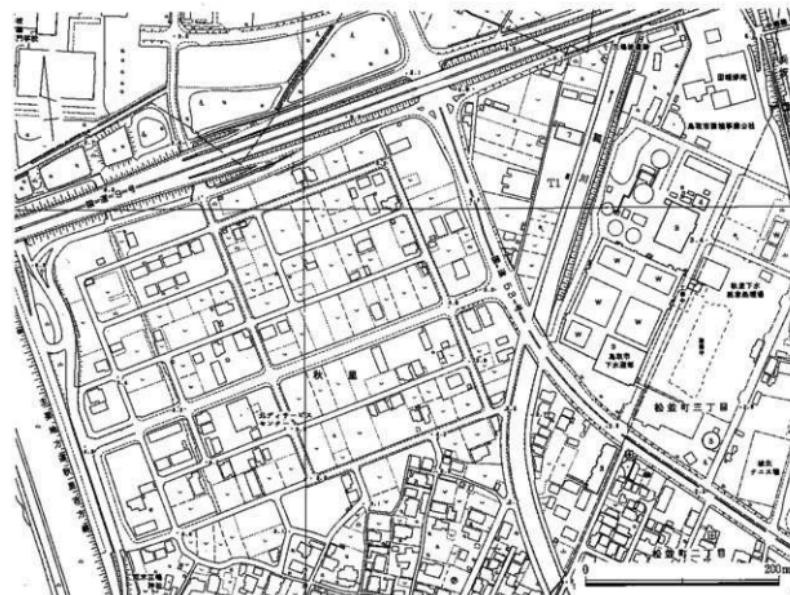
秋里遺跡の周辺には、開地谷古墳群、浜坂横穴群などの古墳群や、縄文~古墳時代の遺物散布地である追後遺跡などが知られている。

2. 発掘調査の概要

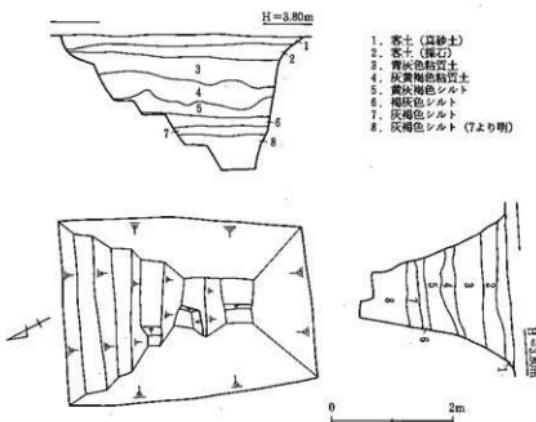
今回の調査は民間の住宅建設に伴って実施したもので、建設地内1箇所にトレンチ（第1トレンチ）を設定した。調査地は狐川の左岸にあたり、対岸には秋里下水終末処理場が位置している。

第1トレンチ（T-1）（第5図、図版1）

2.5×4.0mのトレンチである。地表面の標高は3.6m前後を測る。地表下30~40cm厚で客土が認められ、以下は第3~8層の堆積が見られる。造構は検出されなかったが、第6層から土師器、須恵器、白磁、第7、8層から土師器、須恵器などの遺物が出土している。遺物の量はわずかで、いずれも細片である。



第4図 秋里遺跡 調査位置図



第5図 秋里遺跡 第1トレンチ実測図

IV 里仁第3横穴群

1. 遺跡の位置と環境

里仁第3横穴群は、鳥取市里仁に所在し、湖山池南東側の標高40m前後の低丘陵に立地している。遺跡が立地する一帯は県立布勢総合運動公園として整備が進められており、整備事業に伴いたび重なる発掘調査が行われてきている。

里仁第3横穴群の周辺には、里仁古墳群、倉見古墳群、布勢鶴指奥墳墓群、桂見墳墓群や、布勢第1、2遺跡、桂見遺跡など多くの遺跡が知られている。これらの遺跡の発掘調査はこれまでに数次にわたって行われ、平成6、7年度に実施された桂見遺跡の調査では大型の丸木舟が相次いで出土し話題となった。また、布勢鶴指奥墳墓群、桂見墳墓群では弥生時代の墳丘墓や土壙墓群、その他多数の中世墓が調査されている。

2. 発掘調査の概要

今回の調査は布勢総合運動公園整備に伴って実施したものである。調査は、布勢陸上競技場南東の南北に延びる丘陵東側斜面に2箇所（第1、5トレンチ）、西側斜面に3箇所（第2、3、4トレンチ）にトレンチを設定し行った。

第1トレンチ（T1）〔第7図 図版2〕

丘陵主稜線からわずかに下った東側斜面に設定した3.0×22mのトレンチである。斜面はすでに掘削され法面として整備されている。調査はこの法面を精査する方法で行った。第7図はその断面図である。第11、12層の上位はすでに開口しており、横穴の所在が明らかである。第4、5、6層、第7層、第8、9、10層も横穴の埋土とみられ、計4基の横穴が近接して築造されているものと考えられる。

第2トレンチ（T2）〔第8図 図版2〕

稜線上からわずかに下った凹状地形を呈する傾斜変換点に設定した1.0×5.1mのトレンチである。厚さ10cm前後の表土を除去した段階で、トレンチ上位で明黄褐色砂質土（一部花崗岩風化土）の地山が、また、下位の緩斜面では自然堆積とみられる褐色砂質土（第3層）、明黄褐色砂質土（第4、5層）が確認された。遺構、遺物は検出されなかった。

第3トレンチ (T3) (第8図)

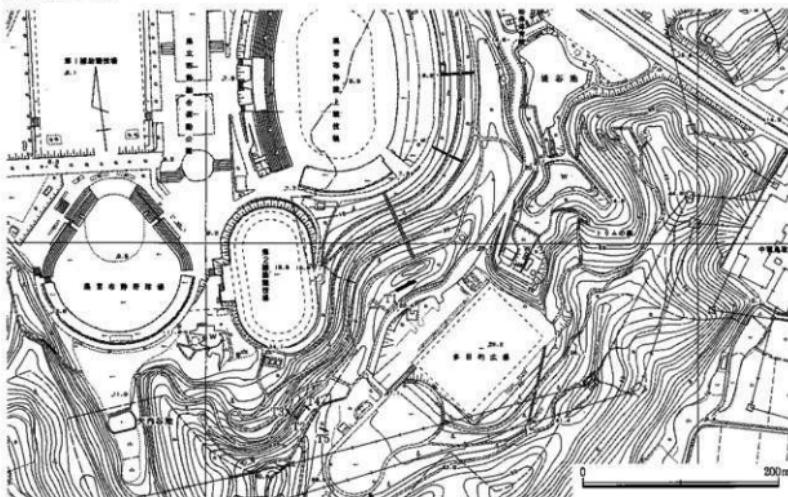
第2トレンチの西側約10mの緩斜面に設定した0.9×7.1mのトレンチである。厚さ10~20cmあまりの表土下に自然堆積とみられる褐色砂質土、明褐色砂質土が見られ、以下はにぶい褐色砂質土(真砂土)の地山である。遺構、遺物は検出されなかった。

第4トレンチ (T4) (第8図・図版3)

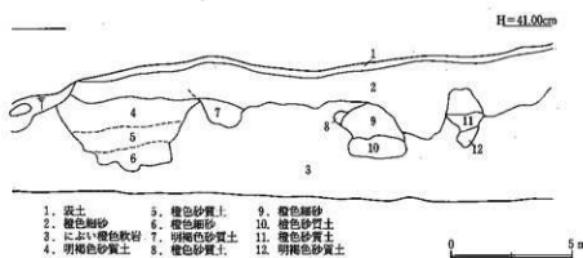
第2トレンチの下位にみられた凹状地形の傾斜変換点に設定した0.9×7.3mのトレンチである。厚さ10~25cmあまりの表土下の斜面上位で明黄褐色砂質土(第3層)、下位の緩斜面では橙色砂質土(第4、6層)が堆積している。いずれも自然堆積とみられる。第7層が地山とみられるが、加工した明確な痕跡はなく、遺物も検出されなかった。

第5トレンチ (T5) (第8図・図版3)

緩斜面の傾斜変換点に設定した0.9×9.0mのトレンチである。厚さ8~20cmあまりの表土がみられ、この表土に橙色砂質土(真砂土)の地山が確認された。地山を加工した痕跡はなく、遺構・遺物は検出されなかった。

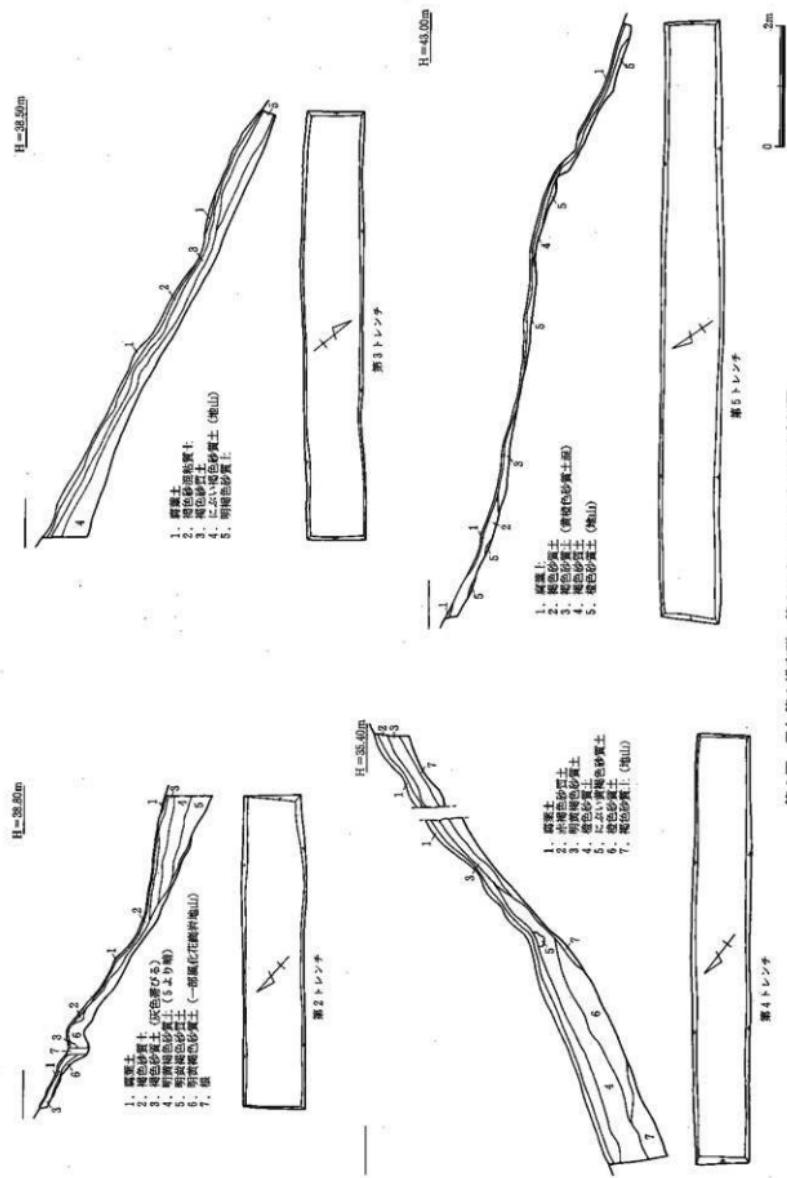


第6図 里仁第3横穴群調査位置図



第7図 里仁第3横穴群 第1トレンチ断面実測図

第8図 里仁第3標穴群 第2・3・4・5トレンチ実測図



V 桂見古墳群

1. 遺跡の位置と環境

桂見古墳群は、鳥取市桂見地内に所在し、湖山池の南東側低丘陵に立地している。遺跡が立地する一帯は、県立布勢総合運動公園、とつとりふれ合いの森整備事業、宅地造成などが進められており、開発事業に伴い数次の発掘調査が行われてきている。桂見古墳群の発掘調査も昭和58年、平成4年に行われ、昭和58年に調査された桂見2号墳は、長辺28m、高さ4.5mの墳丘規模を持ち、埋葬施設として4.3mを測る長大な組合式箱式木棺が検出されている。この棺内からは舶載鏡である内行花文鏡が出土しており、主体部規模や副葬品などの内容から鳥取市域のなかでも卓越した古墳として捉えられている。

桂見古墳群の周辺には、低丘陵上に里仁古墳群、倉見古墳群、布勢鶴指奥墳墓群が、平野部には桂見遺跡、東桂見遺跡などが立地している。湖山池の南東部一帯は市域の中でも遺跡の密集地域となっている。

2. 発掘調査の概要

今回の調査は公共施設の整備に伴い実施したもので、桂見集落の南西側に張り出した丘陵上に11箇所のトレンチ（第1～11トレンチ）を設定し行った。調査地は標高20～76mの丘陵で、随所に隆起状の地形が見られる。調査は主にこれらの隆起地形を対象に実施した。なお、実測図のレベルは任意である。

第1トレンチ（T1）【第10図 図版4】

主稜線から分岐した小尾根の先端部からわずかに下った斜面の傾斜変換点に設定した0.6×5.0mのトレンチである。厚さ10cm前後の表土が認められ、表土下は赤褐色軟岩が脈状にはいる黄褐色砂質土（真砂土）の地山である。地山を加工した痕跡はなく、遺構や遺物は検出されなかった。

第2トレンチ（T2）【第10図】

小尾根の先端部の平坦部に設定した0.6×5.0mのトレンチである。厚さ6.0～10cmあまりの表土下に一部真砂土混じりの暗褐色砂質土が堆積するが、以下は軟岩の地山である。遺構、遺物は検出されなかった。

第3トレンチ（T3）【第11図 図版5】

第2トレンチ北西側の稜線上に見られた傾斜変換点に設定した0.6×8.1mのトレンチである。厚さ12～25cmの表土以下は地山となり、盛土や地山加工の痕跡は認められず、遺物も検出されなかった。

第4トレンチ（T4）【第11図 図版4】

主稜線から分岐した小尾根上に見られた隆起状地形部に設定した0.6×6.0mのトレンチである。厚さ8.0～20cmの表土が認められ、それ以下は淡黄褐色砂質土（真砂土）の地山である。盛土や地山を加工した痕跡はなく遺物も検出されなかった。

第5トレンチ（T5）【第11図 図版4】

主稜線の頂部（標高76.6m）から分岐した小尾根の先端部に設定した0.6×4.7mのトレンチである。厚さ5.0～20cmの表土が認められ、それ以下は淡黄褐色砂質土（真砂土）の地山である。遺構、遺物は検出されなかった。

第6トレンチ（T6）【第11図 図版5】

尾根上に見られた隆起状地形部とその傾斜変換点に設定した0.6×15.9mのトレンチである。厚さ5.0～18cmあまりの表土下に自然堆積とみられる明黄褐色砂層が一部観察され、以下は淡黄褐色砂質土（真砂土）の地山である。盛土や地山を加工した痕跡はなく、遺構・遺物は検出されなかった。

第7トレンチ（T7）【第11図 図版5】

尾根上に見られた隆起状地形部とその傾斜変換点に設定した0.6×9.0mのトレンチである。厚さ5.0～20cmあまりの表土下は、赤褐色の軟岩が脈状にはいる淡黄褐色砂質土（真砂土）の地山である。盛土や地山を加工した痕跡はなく、遺物も検出されなかった。

第8トレンチ（T.8）〔第12図 図版5〕

主稜線から分岐した小尾根上に見られた舌状の平坦部に設定した $0.6 \times 5.3\text{m}$ のトレンチである。厚さ $4.0 \sim 20\text{cm}$ の表土が認められ、以下は地山とみられる均一な黄褐色粘質土が堆積している。遺構、遺物は検出されなかった。

第9トレンチ（T.9）〔第12図 図版6〕

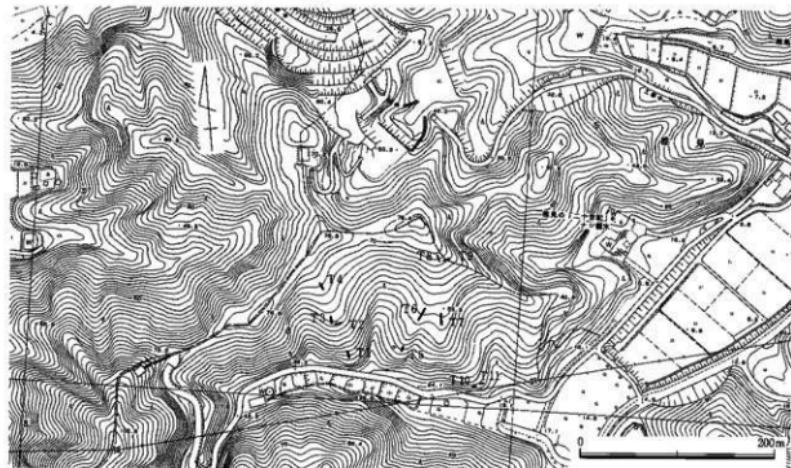
第8トレンチの東側平坦部に設定した $0.6 \times 4.2\text{m}$ のトレンチである。厚さ $15 \sim 25\text{cm}$ の表土には第8トレンチと同様の淡黄褐色粘質土（地山）が認められる。盛土や地山を加工した痕跡はなく遺物も出土しなかった。

第10トレンチ（T.10）〔第12図 図版7〕

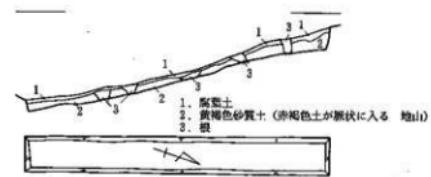
丘陵裾部で観察された石材の露頭部分を対象とし、石材の遺存状態を確認するトレンチを設定した。精査の結果、積み上げられた石材がL字形に遺存しており、横穴式石室の奥壁および側壁の一部と思われる。遺物は検出されなかった。

第11トレンチ（T.11）〔第12図 図版8〕

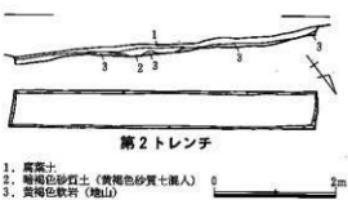
第10トレンチの東側に見られた石材の露頭部に設定した。L字形の石積が遺存しており、横穴式石室の奥壁および側壁の一部と考えられる。尾根の上位側には周溝の痕跡と見られる馬蹄形の凹みがわずかに認められる。遺物は検出されなかった。



第9図 桂見古墳群調査位置図



第1トレンチ

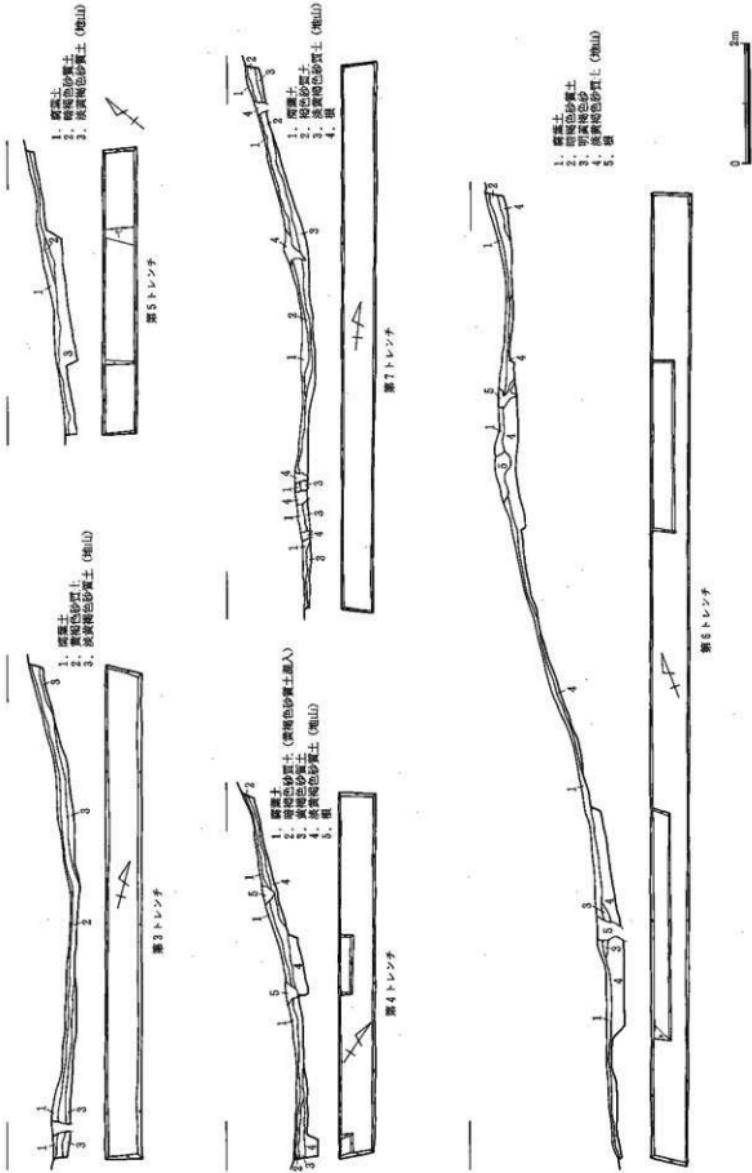


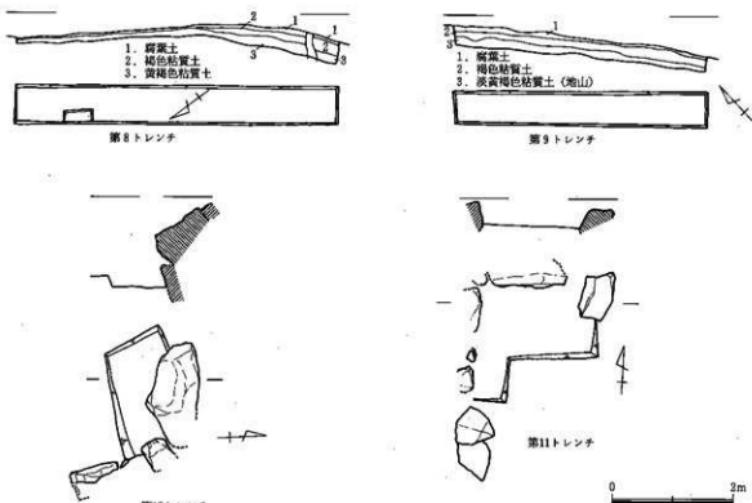
第2トレンチ

1. 表土
2. 黄褐色砂質土（黄褐色砂質土混入）
3. 黄褐色軟岩（地山）

第10図 桂見古墳群 第1・2トレンチ実測図

第11図 桂見古墳群 第3・4・5・6・7トレンチ実測図





第12図 桂見古墳群 第8・9・10・11トレンチ実測図

VI 倭文所在遺跡 1

1. 遺跡の位置と環境

倭文所在遺跡 1 は、JR鳥取駅から南南西約6kmの鳥取市倭文、玉津地内に所在し、両集落の間に広がる平野部および丘陵裾部に立地している。本遺跡については平成12年度に試掘調査が行われ、土坑状遺構やピット、遺物として弥生土器片、土師皿片が数点検出されている。

倭文所在遺跡 1 の周辺には玉津古墳群、横枕古墳群などの古墳や、鶴尾城を中核とする中世の城跡が知られている。北西側丘陵に展開する横枕古墳群では近年多くの発掘調査が行われており、古墳時代前期～後期の各時期の古墳が数多く検出されている。

2. 発掘調査の概要

今回の調査は道路整備事業に伴って実施した。調査は遺跡の北側と、12年度調査で弥生土器が検出された隣接地を対象とし、事業計画地内2箇所にトレンチ（第1、2トレンチ）を設定した。調査地の現況は水田である。

第1トレンチ（T-1）【第14図 図版2】

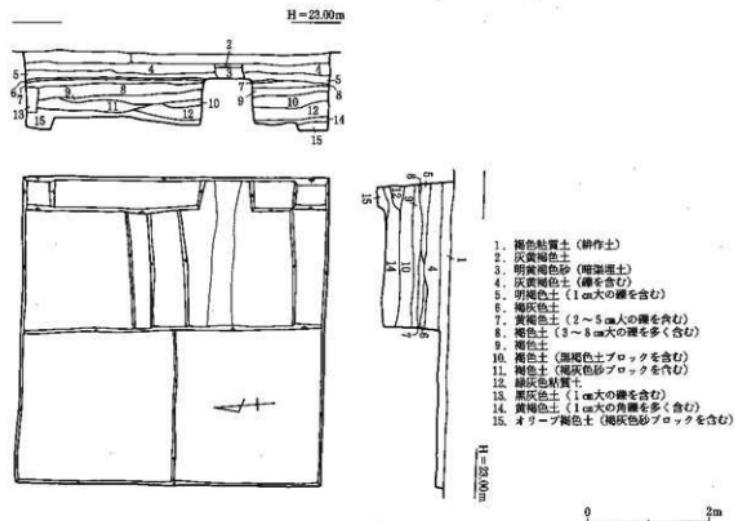
12年度調査地の北西側70mに設定した5.0×5.0mのトレンチである。地表面の標高は22.7m前後を測り、地表下15～20cm厚で耕作土が認められる。耕作土下の第4、5層は比較的整った堆積をみせるが、それ以下の第7、8層には3～8cm大の角礫が多く含まれており土砂とみられる。第15層が地山と考えられる。遺構は検出されなかった。遺物は第8層より上層から須恵器、瓦質土器、陶磁器が出土しているが、いずれも摩耗の著しい破片で混入遺物と思われる。

第2トレンチ（T-2）【第15図 図版7】

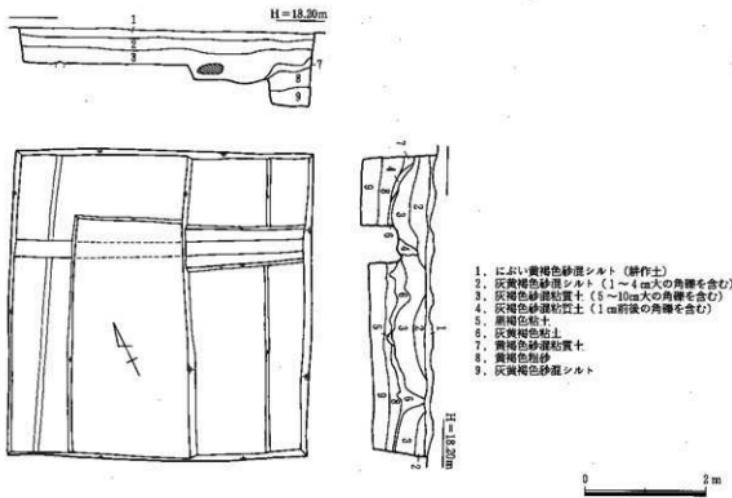
玉津集落の北東150mの水田部に設定した5.0×5.0mのトレンチである。地表面の標高は18m前後を測る。地表下は厚さ10～15cmの耕作土で、耕作土以下第8層までは乱れた堆積状況がみられ、改変されている様子がうかがわれる。第9層が基盤層と考えられる。遺構、遺物は検出されなかった。



第13図 倭文所在遺跡1調査位置図



第14図 倭文所在遺跡1 第1トレンチ実測図



第15図 傑文所在遺跡1 第2トレンチ実測図

VII 本高段木遺跡

1. 遺跡の位置と環境

本高段木遺跡は、JR鳥取駅から南西約3kmの鳥取市本高地内に所在し、本高集落から南東約500mに位置する独立丘陵の裾部に立地している。本遺跡については平成12年度に試掘調査が行われ、溝、土坑、ピットなどの遺構とともに須恵器、土師器、瓦質土器が検出されている。

本高段木遺跡の周辺丘陵上には服部古墳群や釣山古墳群、平野部には服部遺跡、山ヶ鼻遺跡、菖蒲遺跡、古海遺跡など多くの遺跡が知られている。服部古墳群では平成11、12年度に発掘調査が行われており、前期古墳とともに弥生時代の墳丘墓が検出されている。

2. 発掘調査の概要

今回の調査は道路整備事業に伴って実施したもので、12年度実施した調査地の北側を対象とし、事業計画地内2箇所にトレンチ（第1、2トレンチ）を設定した。

第1トレンチ（T-1）〔第17図 図版8〕

12年度調査地から一段下った水田部に設定した2.9×4.9mのトレンチである。地表面の標高は8.3m前後を測る。地表下は厚さ10~18cmの耕作土で、耕作土下に床土とみられる褐灰色粘質土が堆積している。床土下の第6層上面から直径15~40cmを測る多数のピットを検出した。P1埋土から土錐、P2からは須恵器片、土師器片が出土している。中世の遺構面と考えられる。第10層からは遺構、遺物は検出されなかった。

第2トレンチ（T-2）〔第17、18図 図版9〕

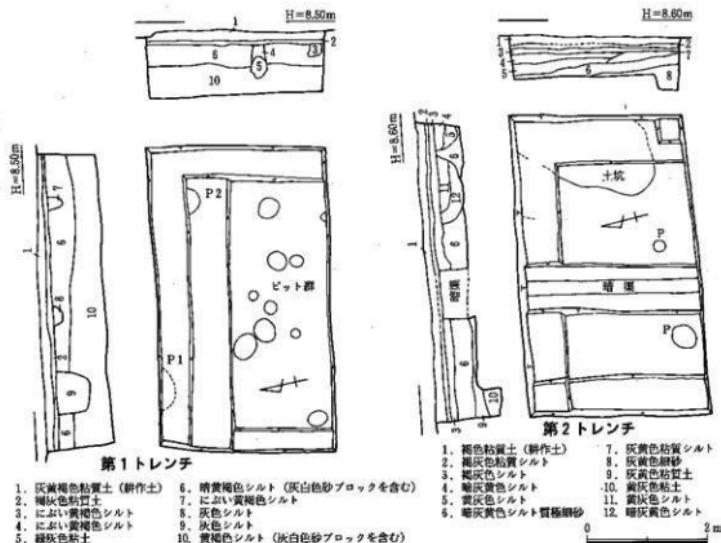
第1トレンチの西側に設定した2.8×4.9mのトレンチである。地表面の標高は8.4m前後を測る。地表下は厚さ10~20cmの耕作土で、耕作土下に厚さ8cm前後の床土が堆積している。床土の下には褐灰色シルト層（第3層）がみられる。第3層からは明らかな遺構は検出されなかったが、多数の須恵器片が検

出された。

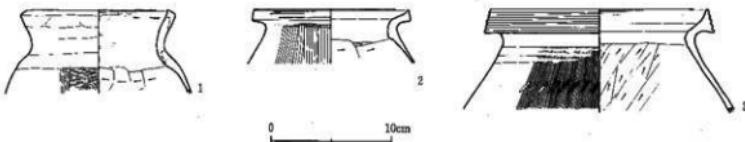
第3層下の暗灰黄色シルト質極細砂層（第6層）の上面から土坑状造構とピットが検出された。また、第6層からは第18図の壺、甕などの弥生土器が出土した。出土点数は100点以上を数える。弥生時代後期の遺跡が存在することを示唆している。



第16図 本高段木遺跡調査位置図



第17図 本高段木遺跡 第1・2トレンチ実測図



第18図 本高段木遺跡 第2トレンチ出土遺物実測図

VII 山ヶ鼻遺跡

1. 遺跡の位置と環境

山ヶ鼻遺跡は、千代川左岸の鳥取市菖蒲、古海、本高地内に所在し、JR鳥取駅の西南西約2.2kmに位置する。山ヶ鼻遺跡の発掘調査は平成6年度と7年度に行われており、掘立柱建物、井戸、土坑、溝などの遺構とともに縄文時代、弥生時代、古墳時代、中世の土器が多数出土している。

山ヶ鼻遺跡の周辺には服部古墳群、古海古墳群、鈴山古墳群や服部遺跡、菖蒲遺跡、古海遺跡など多くの遺跡が知られている。

2. 発掘調査の概要

今回の調査は道路整備事業に伴って実施したもので、平成6年度調査地の北東側約80~150m地点にあたる。調査は事業計画地内2箇所にトレンチ（第1、2トレンチ）を設定して行った。調査地の現況は水田である。

第1トレンチ（T1）【第20図 図版9】

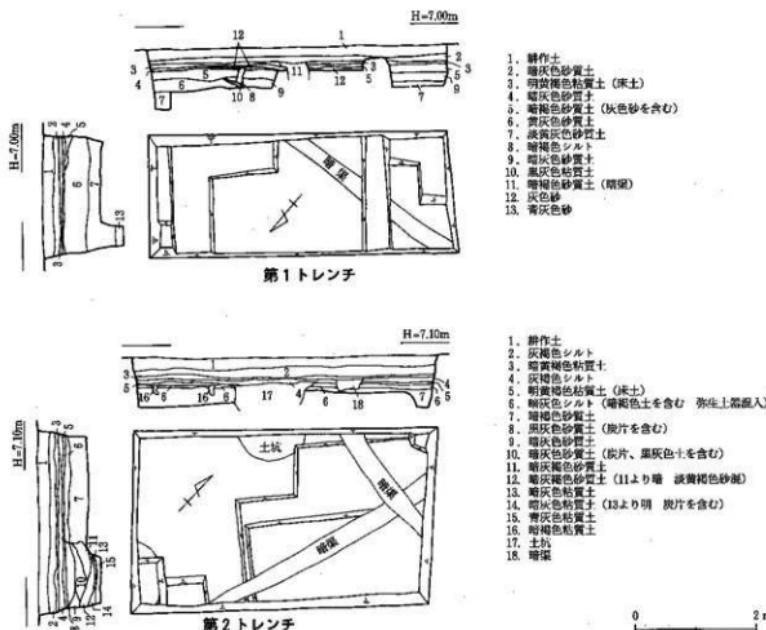
調査対象地の北東側に設定した2.0×5.0mのトレンチである。地表面の標高は6.7m前後を測る。地表面下の第1層は耕作土、第3層の明黄褐色粘質土が床土である。床土以下は上層で薄く、下層で厚い土砂堆積が観察される。全体に整った堆積層序で、最下層の第13層は青灰色砂となる。遺構、遺物は検出されなかった。



第19図 山ヶ鼻遺跡調査位置図

第2トレンチ(T-2) (第20、21図 国版9~10)

調査対象地の南西端に設定した3.0×5.0mのトレンチである。地表面の標高は6.9m前後を測る。地表面下40~45cmでみられる第5層が床土である。第5層下の暗灰色シルト(第6層)には弥生土器が含まれ、その上面から土坑状遺構2基を検出した。第8~14層は土坑埋土である。第21図は第6層から出土した壺の口縁部である。第6層からはこのほかに弥生土器とみられる土器片が多数出土しており遺跡の存在を示唆している。第6層以下からは遺構、遺物は検出されなかった。



第21図 山ヶ鼻遺跡 第2トレンチ出土遺物実測図



IX 久末・古郡家遺跡

1. 遺跡の位置と環境

久末・古郡家遺跡は、JR鳥取駅の南南東約3.8~4.3kmの鳥取市久末および古郡家地内に所在し、古郡家集落の北側に広がる平野部に立地している。久末・古郡家遺跡の発掘調査はは場整備事業にともなって昭和48年度に行われており、掘立柱建物、土坑、溝、ピットなどの遺構が検出された。遺物も弥生時代中期~古墳時代前期の土器を主体に数多く出土している。

久末・古郡家遺跡の縁辺丘陵には橋本古墳群、美和古墳群、古郡家古墳群、六部山古墳群が展開している。これらの古墳群の中には、大型前方後円墳の古郡家1号墳、六部山3号墳、家型石棺を納めた橋本38号墳など注目される古墳が築かれている。また、遺跡周辺では、集落遺跡として西大路土居遺跡が知られている。

2. 発掘調査の概要

今回の調査は道路整備事業に伴って実施したもので、事業計画地内3箇所にトレンチ（第1～3トレンチ）を設定して行った。調査対象地は久末・古郡家遺跡の南側にある。

第1トレンチ（T1）（第20、25図 図版10-11）

調査対象地の南東側に設定した5.0×5.0mのトレンチである。地表面の標高は11.1m前後を測る。地表下に厚さ10～15cmあまりの耕作土がみられ、耕作土下の暗灰色砂質土（第2層）には須恵器片、土師器片が混入する。地表面下25～30cmの第3層上面で溝状遺構を検出した。第9～11、20層が溝の埋土である。また、第3層からは弥生時代後期の土器群が検出され多くの土器が出土した。第25図1（壺）2（甕）3（器台）は第3層出土遺物である。黒灰色粘質土（第6層）には遺構、遺物は見られなかった。

第2トレンチ（T2）（第23図 図版11）

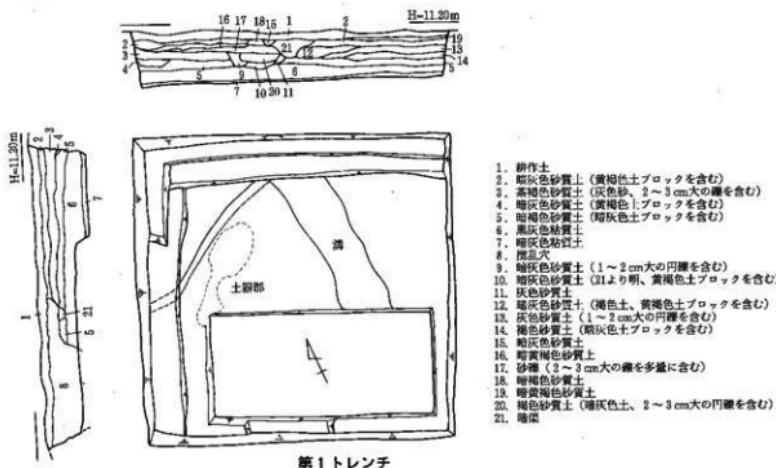
調査対象地のほぼ中央に設定した3.5×5.0mのトレンチである。地表面の標高は10.9m前後を測る。地表下に厚さ10～18cmあまりの耕作土がみられ、耕作土下の暗灰色シルト層（第2層）が床土である。床土の下層からほぼ南北に主軸をとる深さ80cmあまりの溝状遺構を検出した。第9～16層が溝の埋土で、溝の幅は4mを超える。溝の埋土には須恵器、土師器の破片が多数混入している。黒灰色粘土層（第7層）からは遺構、遺物は検出されなかった。



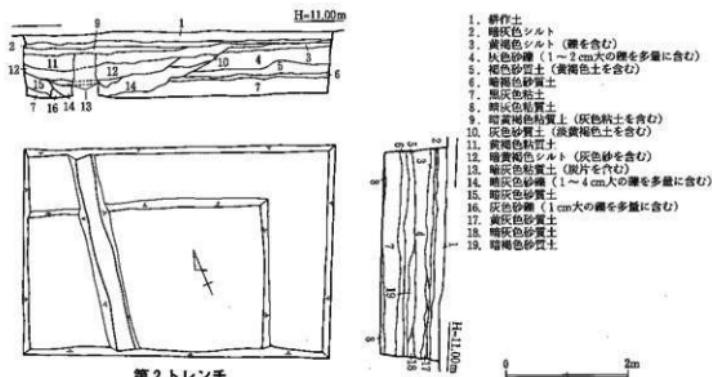
第22図 久末・古郡家遺跡調査位置図

第3トレンチ(図3) (第24図 国版1)

調査対象地の北西側に設定した3.0×5.0mのトレンチである。地表面の標高は10.6m前後を測る。地表下に厚さ8~25cmあまりの耕作土がみられ、耕作土下の灰色粘質土層(第3層)が床土と思われる。床土の下には厚さ10cmあまりの黄褐色粘質土(第4層)が帶状に入り客土された様子が見られる。第4層下の第6層は均一な黄褐色粘質土で、以下暗灰色の粘土層に続く。遺構は検出されなかった。遺物は耕作土中から須恵器片と土師器片が出土している。

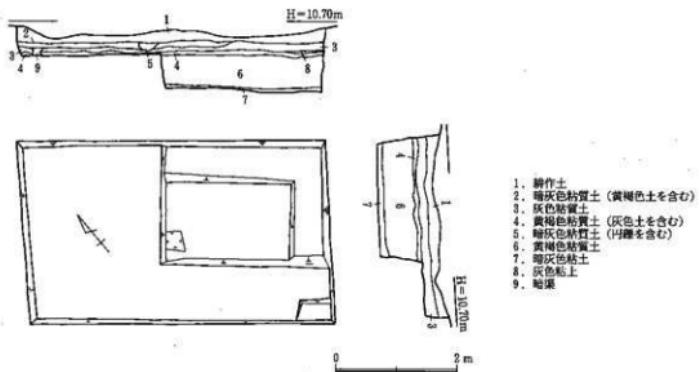


第1トレンチ

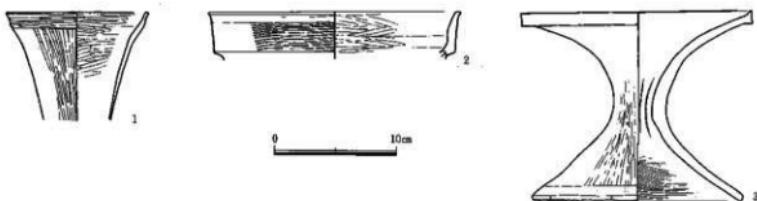


第2トレンチ

第23図 久末・古郡家遺跡 第1・2トレンチ実測図



第24図 久末・古郡家遺跡 第3トレンチ実測図



第25図 久末・古郡家遺跡 第1トレンチ出土物実測図

X おわりに

今回の調査は、開発事業計画地内における遺跡の所在確認を主として行った。調査対象遺跡は、古市遺跡、秋里遺跡、里仁第3横穴群、桂見古墳群、倭文所在遺跡1、本高段木遺跡、山ヶ鼻遺跡、久末・古郡家遺跡の8遺跡である。以下、各遺跡の調査結果についてまとめておく。

古市遺跡

現地表下70cm前後で近世以降と考えられる溝と、その下層から土坑状の浅い落ち込みが確認されたものの遺物もなく具体的な性格は把握できなかった。平成8年、9年度に実施した調査では弥生時代中・後期～古墳時代前期、奈良、平安時代の遺構、遺物が検出されているが、今回の調査からは同時期の遺構や遺物は確認されず、平成8、9年度調査地と同様の遺跡は包蔵されていないものと思われる。

秋里遺跡

遺構は検出されず、包含層遺物として須恵器、土師器、白磁の細片が出土した。平成7年度に実施した北東側隣接地の調査では、古墳時代後期、平安時代～鎌倉時代の掘立柱建物、井戸、土坑、溝が検出されている。基本的に同様の様相を呈するものと考えられるが、限られた範囲での調査であったため具体的な遺跡の把握はできなかった。

里仁第3横穴群

開発計画地内の丘陵斜面を中心に調査を行った。調査の結果、丘陵東斜面に設定した第1トレンチから近接して築造されている4基の横穴を検出した。この内の1基はすでに開口している。同一丘陵には里仁第2横穴群が知られており、一帯の丘陵にも横穴が造営されている可能性が高く注意を払っていく必要がある。

桂見古墳群

調査対象地内に見られる隆起状地形および地形変換点の11箇所にトレンチを設定した。調査の結果、丘陵裾部に設定した第10、11トレンチで横穴式石室を主体部とする古墳2基を検出した。石室の状態は悪く、奥壁と側壁の一部が遺存している。調査対象地外ではあるが、対面する東側丘陵裾にも横穴式石室を持つ古墳3基が築造されていることが今回新たに確認された。桂見古墳群の中ではこれまでに横穴式石室を埋葬施設に持つ古墳の所在は確認されておらず、周辺丘陵の裾部についても今後十分注意を払っていく必要があることを付記しておく。

倭文所在遺跡1

第1トレンチ上層の客土から須恵器、瓦質土器、陶磁器の破片が出土したが、明確な遺構は検出されなかった。平成12年度の試掘調査では、今年度の第1トレンチ北西110m地点の表土下で土坑状遺構1、ピット1が検出されている。両年度に実施した調査の結果、時期、性格は不明瞭であるが、玉津集落の東側高地上に遺跡が存在する可能性が考えられる。集落の南東丘陵上（標高約260m）には武田氏の持ち城と伝えられる鶴尾城が築かれている。玉津集落の南側には「殿屋敷」「寺田」などの小字がみられ、山麓に中世遺跡が包蔵されていることが十分考えられる。

本高段木遺跡

ピット16、土坑1などの遺構と多数の弥生土器が検出され、弥生時代後期の遺構面が存在することが明らかになった。本遺跡の試掘調査は平成12年度にも実施され、中世の遺構が明らかになっている。両年度の調査の結果、丘陵裾部の微高地に弥生時代後期および中世の遺跡が包蔵されているものと思われる。

山ヶ鼻遺跡

山ヶ鼻遺跡では平成6、7年度の調査によって多くの遺構、遺物が検出されている。今回の調査対象地は既往調査地の南東側にあたる。調査の結果、第2トレンチから土坑2と弥生土器の包含層を検出し、遺跡が北東側に広がっていることが確認された。遺跡の範囲については、対象地の北東に設定した第1トレンチで遺構、遺物が認められないことや、土砂の堆積状況からみて同地点まで遺跡が広がっていく可能性は少ないものと考えられる。

久末・古都家遺跡

事業計画地内の3箇所にトレンチを設定した。南東側にあけた第1トレンチから溝状遺構と弥生時代後期の土器群、中央部に設定した第2トレンチからは幅4m以上、深さ80cm前後の溝が検出され、遺跡の存在が明らかになった。対象地北西側に設定した第3トレンチからは遺構は検出されず、遺物は耕作土中の須恵器片、土師器片にとどまる。南東側の遺跡範囲は大路川の左岸線辺まで広がり、北西側は第3トレンチ地点まではおよばないものと思われる。

写 真 図 版



古市遺跡
調査地全景（北から）



古市遺跡
第1トレンチ（北東から）



秋里遺跡
第1トレンチ（北から）

図版 2



里仁第3横穴群
第1トレンチ横穴開口状況
(南東から)



里仁第3横穴群
第1トレンチ横穴埋土状況
(南東から)



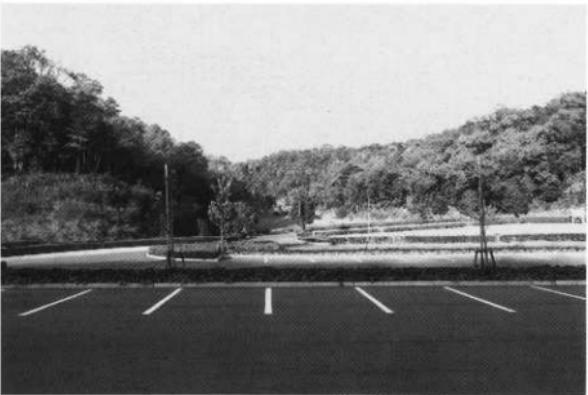
里仁第3横穴群
第2トレンチ (北西から)



里仁第3横穴群
第4トレンチ（南東から）



里仁第3横穴群
第5トレンチ（南東から）



桂見古墳群
調査地遠景（東から）

図版 4



桂見古墳群
第1トレンチ（南から）



桂見古墳群
第4トレンチ（北西から）



桂見古墳群
第5トレンチ（北東から）



桂見古墳群 第3トレンチ（北西から）



桂見古墳群 第6トレンチ（南西から）



桂見古墳群 第7トレンチ（北から）

図版 6



桂見古墳群
第8トレンチ（北東から）



桂見古墳群
第9トレンチ（北西から）



桂見古墳群
第10トレンチ（南から）

桂見古墳群
第11トレンチ（南から）



倭文所在遺跡1
第1トレンチ（西から）



倭文所在遺跡1
第2トレンチ（南西から）



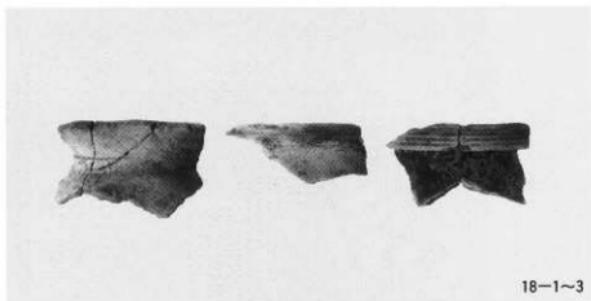
図版 8



木高段木遺跡
第1トレンチ（西から）



木高段木遺跡
第2トレンチ（北から）



18-1~3

木高段木遺跡 第2トレンチ出土遺物



山ヶ鼻遺跡
調査地遠景（北東から）



山ヶ鼻遺跡
第1トレンチ（南西から）

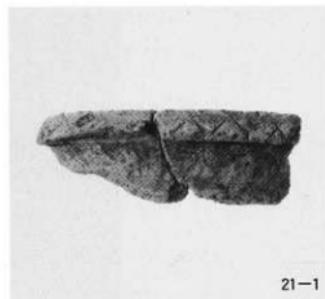


山ヶ鼻遺跡
第2トレンチ（南東から）

図版10



山ヶ鼻遺跡 第2トレンチ土杭検出状況



21-1

山ヶ鼻遺跡 第2トレンチ出土遺物



久末・古郡家遺跡
調査地遠景（南西から）



久末・古郡家遺跡
第1トレンチ（南から）



久末・古都家遺跡
第1トレンチ出土状況
(北東から)



久末・古都家遺跡
第2トレンチ (南西から)



久末・古都家遺跡
第3トレンチ (北西から)

報告書抄録

ふりがな 書名	平成13(2001)年度 鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書						
副書名	古市遺跡 秋里遺跡 里仁第3横穴群 桂見古墳群 倭文所在遺跡1 本高段木遺跡 山ヶ鼻遺跡 久末・古郡家遺跡						
卷次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	平川誠 前田均						
編集機関	鳥取市教育委員会						
所在地	〒680-0047 鳥取県鳥取市上魚町39 TEL 0857-22-8111						
発行年月日	西暦 2002年 3月23日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ一ド 市町村	北緯 遺跡番号	東経	調査期間	調査面積	調査原因
吉市遺跡	鳥取市吉市	31201		35° 29' 17"	134° 13' 08"	20011009 ~ 20011010	16.5m ² 住宅建設
秋里遺跡	鳥取市秋里	31201		35° 31' 03"	134° 13' 13"	20011017	12.0m ² 住宅建設
里仁第3横穴群	鳥取市里仁	31201		35° 29' 40"	134° 11' 12"	20011022 ~ 20011030	92.9m ² 公園造成
桂見古墳群	鳥取市桂見	31201		35° 29' 25"	134° 10' 28"	20011120 ~ 20011128	44.2m ² 公共施設建設
倭文所在遺跡1	鳥取市倭文	31201		35° 26' 38"	134° 11' 38"	20011119 ~ 20011122	50.0m ² 道路整備
本高段木遺跡	鳥取市本高	31201		35° 28' 31"	134° 12' 11"	20011128 ~ 20011129	27.9m ² 道路整備
山ヶ鼻遺跡	鳥取市古海	31201		35° 25' 15"	134° 12' 20"	20011211 ~ 20011217	25.0m ² 道路整備
久末・古郡家遺跡	鳥取市久末 古郡家	31201		35° 27' 19"	134° 14' 30"	20010525 ~ 20010528 20011203 ~ 20011205	60.0m ² 道路整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
古市遺跡	散布地	近世～中世	土坑	—	試掘調査		
秋里遺跡	散布地	古墳時代	—	土師器	試掘調査		
里仁第3横穴群	古墳	古墳時代	横穴	—	試掘調査		
桂見古墳群	古墳	古墳時代	古墳	—	試掘調査		
倭文所在遺跡1	散布地	—	—	—	試掘調査		
本高段木遺跡	集落跡	弥生時代	土坑、ピット	須恵器、弥生土器	試掘調査		
山ヶ鼻遺跡	集落跡	弥生時代	土坑	弥生土器	試掘調査		
久末・古郡家遺跡	散布地	弥生時代	溝、土器群	弥生土器、土師器	試掘調査		

平成13(2001)年度
鳥取市内遺跡発掘調査概要報告書

平成14年3月 印刷・発行

編集・発行 鳥取市教育委員会
印刷所 株式会社 矢谷印刷所
